

授業概要

私たちが日常使っている言葉を科学的な方法を用いて研究する学問分野を言語学といい、その中で、英語を研究対象としたものを英語学という。言語には「音」「意味」「構造」といった3つの側面があり、言語学にも「音に関する分野（音韻論・音声学）」「意味に関する分野（意味論）」、「構造に関する分野（形態論・統語論）」など様々な下位分野がある。この授業では、他の生物がコミュニケーションに用いる「ことば」とは質的に異なる人間言語の性質について理解することを目標とし、英語学（言語学）の様々な分野の概要を講義する。

授業計画

第1回	人間言語とは 英語学とは
第2回	英語の歴史について（英語史）
第3回	英語の音について（音声学、音韻論）1
第4回	英語の音について（音声学、音韻論）2
第5回	英語の音について（音声学、音韻論）3
第6回	単語の構造について（形態論）1
第7回	単語の構造について（形態論）2
第8回	語句・文の構造について（統語論）1
第9回	語句・文の構造について（統語論）2
第10回	語句・文の構造について（統語論）3
第11回	語や文の意味について（意味論）1
第12回	語や文の意味について（意味論）2
第13回	言語獲得について（心理言語学）1
第14回	言語獲得について（心理言語学）2
第15回	まとめ
第16回	筆記試験

※ 授業の内容、進度は状況に応じて変更されることがある。

到達目標

人間言語についての知識を深めると共に、音声学、音韻論、形態論、統語論、意味論の基礎知識を身につけ、英語の基本的な単語や文の音、意味、構造に関する分析ができるようになる。また英語の分析を通して、論理的・科学的な思考能力を身につけるとともに、英語という言語に対する理解・興味を深める。

履修上の注意

英語学は、暗記が重要な英語の語学学習とは本質的に異なり、論理的・科学的な思考方法が必要である。授業中は、言語分析の問題を解く時間も多いため、ただ講義を聞いてノートをとるだけでなく、自分の頭でよく考えて、わからないことは積極的に質問するように。

予習復習

- ・予習：次回の授業範囲の資料やハンドアウトに目を通し、指示された問題を解いておく。
- ・復習：授業でわからなかったところは次回の授業までにクリアしておくか、疑問点をよく整理しておく。また、授業で扱った問題は家でもう一度解いて復習しておく。

評価方法

授業内での発表、提出物、毎回授業の最後に行う講義内容に関するクイズの結果を平常点として点数化し、筆記による定期試験の結果と合わせて評価する。

平常点 40% 定期試験 60%

テキスト

教科書は使わない。作成したハンドアウトや資料を配布して授業を行う。
(参考図書：西光義弘(編)(2002)『日英語対照による英語学概論 増補版』, くろしお出版)